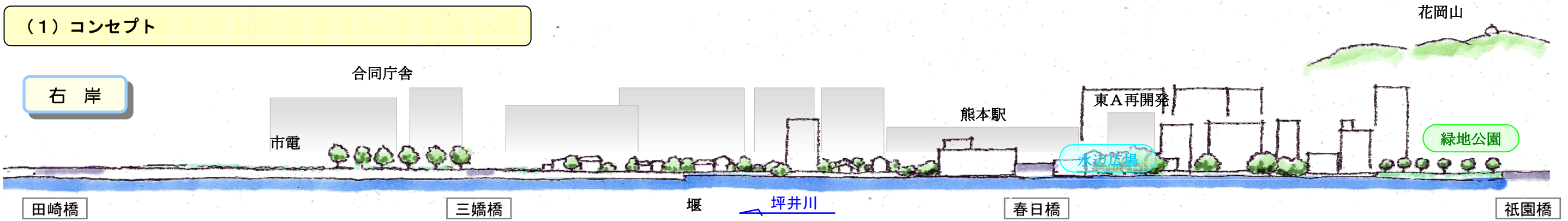
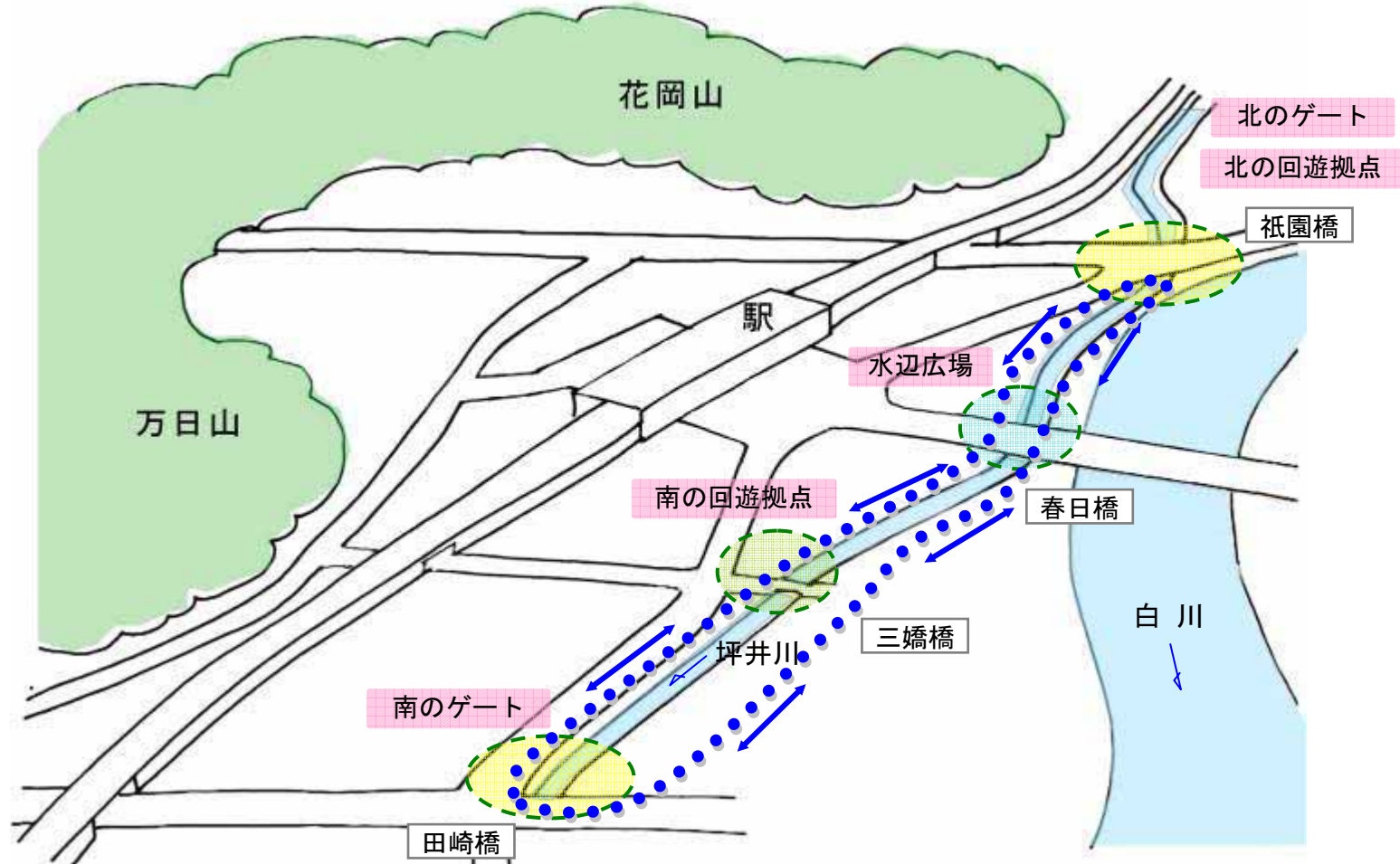


# 6. 水辺の景〈水辺の小径〉 ~心地よい水辺・うるおいの空間~

## (1) コンセプト



右岸



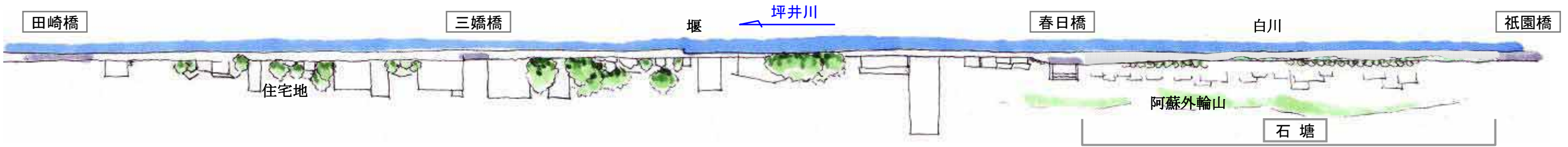
### 与件 (歴史的背景)

太古から豊かな流れで熊本平野をかたち作り、現在も雄大な自然環境を保ち続ける白川に対し、約400年前、加藤清正の熊本城下の大普請にはじまり、治水上も利水的にも様々な目的のために人の手が加えられ、地域に親しまれてきた歴史をもつ坪井川

### コンセプト

- 「坪井川のもつ豊かな資源を活かしつつ、積極的に利活用される快適な水辺空間を創る」
- ◆ 地域の貴重なオープンスペースとして、坪井川沿いの町並みや白川と連携し、心地よいうるおいを感じる空間をつくる
  - ◆ 出会うの景 (アメニティ軸) との結節点である水辺広場から、南・北の回遊拠点へ人を誘う水際散策路空間をつくる
  - ◆ 坪井川沿いの街の記憶や歴史を感じ、地域と一体となつたうるおいを感じられる歩行者ネットワークを形成する
  - ◆ 貴重な資源 (水、樹木、緑、歴史的遺産) を有効に活かした広々としたうるおいのある空間をつくる
  - ◆ 散策空間の単調さをなくし、人を呼び込むオアシス的役割のたまり空間をつくる

左岸



(2) 空間の考え方



田崎橋～三嬌橋

- ・熊本駅城山線沿いの緑が連続するうらおい空間としての歩行空間を形成
- ・民地側での緑の保存と充実を図り、緑と水路のある熊本らしい街並み形成
- ・住宅地内を流れる水路脇の道路を活用したネットワークの形成



水路脇の六地藏 (左岸)



住宅地内の水路 (左岸)



田崎橋から上流

三嬌橋～春日橋

- ・現況の地形を活かした親水性の高い水際散策路スペースを形成
- ・沿川の民間建築物は、川側に“顔”を持たせて坪井川と一体となった賑わいや潤いのある街並み形成を図るように誘導する (オープンカフェや店舗など)
- ・現況の樹木や植生の緑豊かな景観保全
- ・民地側での緑の保存と充実を図り、水際の緑に囲まれた潤いのある街並み形成
- ・坪井川の水の流れの変化や音を感じつつ、水に触れ合うことのできる親水空間を形成
- ・南の回遊拠点として、歴史的な遺産を利活用し、地域住民の憩いの空間を形成



沿川の緑



三嬌橋から上流

春日橋～祇園橋

- ・出会の景との結節点の水辺広場 (春日橋を中心に坪井川上下流) に、高水敷を活用したタマリ空間を整備し、南北への回遊がここから始まる、基点の感じられる空間を構成
- ・水辺広場には、現況の地形を活かした親水性の感じられる散策やタマリの空間を形成
- ・沿川の民間建築物は、川側に“顔”を持たせて坪井川と一体となった賑わいや潤いのある街並み形成を図るように誘導する (オープンカフェや店舗など)
- ・北の回遊拠点として、街の記憶 (対岸・石塘) を眺め、地域住民の憩いの場となるタマリ空間を形成
- ・熊本の歴史や文化を感じさせる石塘の水際沿いには、小段を利用した散策スペースを形成
- ・広々とした石塘上部空間に桜並木を配する等、坪井川・白川の水の流れを感じつつ、周辺の山並みや街の表情を眺めることのできるゆったりと楽しめる空間づくり



春日橋から上流



石塘から白川を眺める

(3) 空間のイメージ



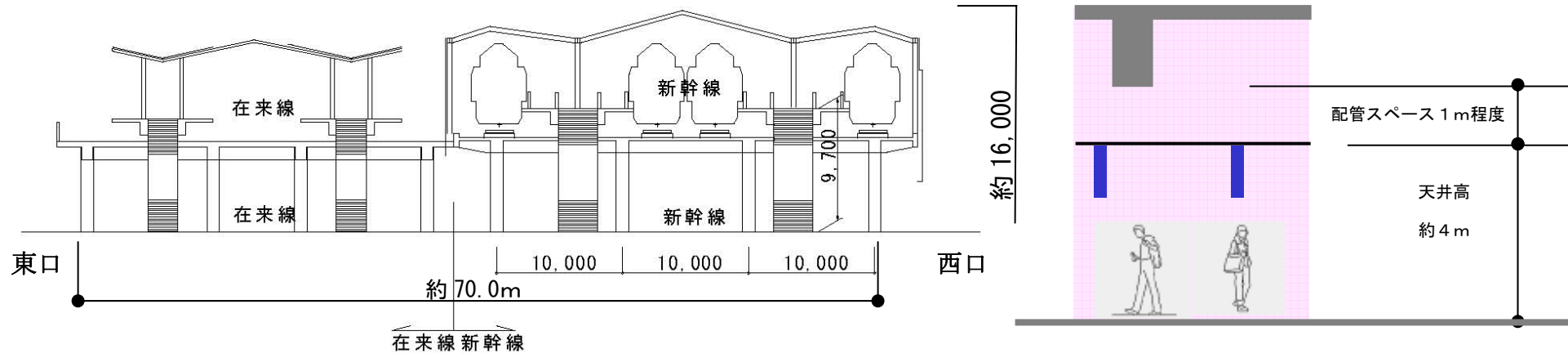
■ 水辺の散策路イメージ

- ・ 町並み沿いには人が憩えるスペースが並び、やさしく流れる水と水際に溢れる緑を眺め、心地よいうるおいを感じることができる。
- ・ 水に近づき親しめる環境を提供し、オアシス的役割のたまり空間となる。

# 7. 熊本駅舎構造

■ 駅舎・ホーム・コンコースの概寸

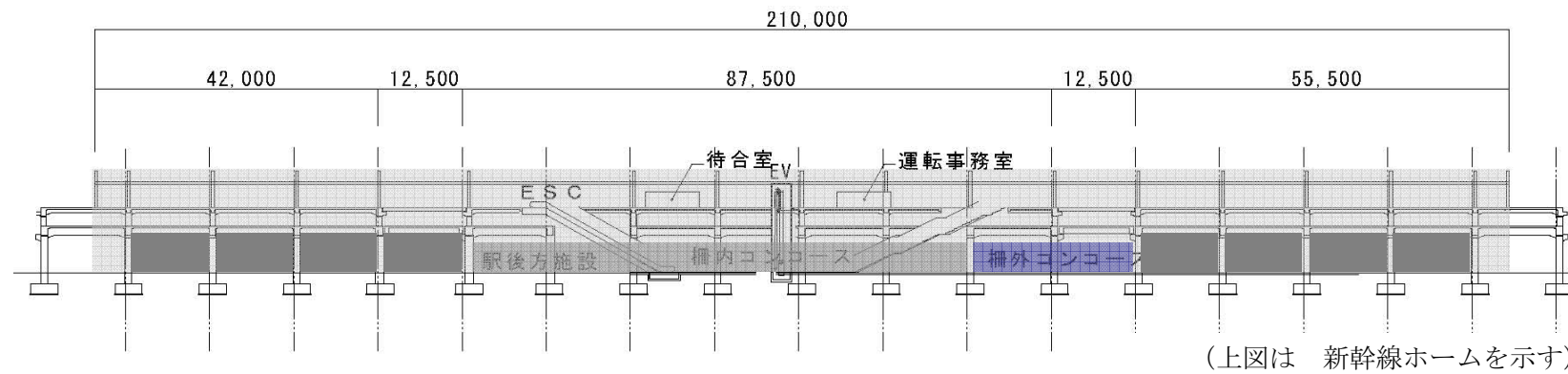
■ コンコースの概寸



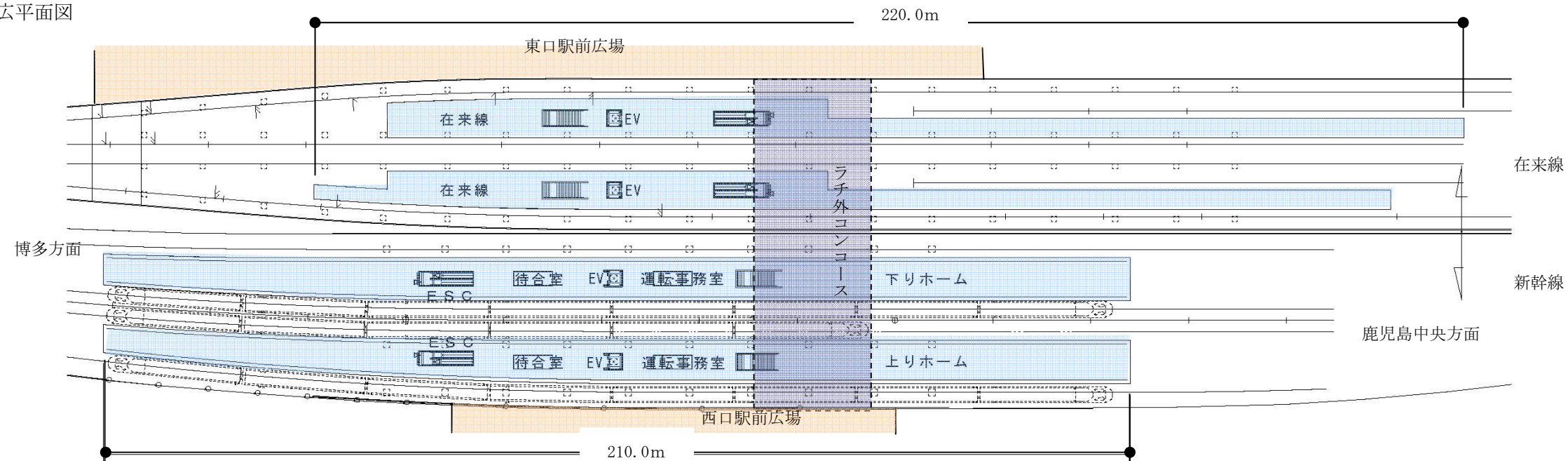
- (1) 駅舎デザイン：諸元上の与件
- ・ 駅舎前面高さは、約 16.0m
  - ・ コンコース長さは、約 70.0m
  - ・ 新幹線ホーム長さは、約 210.0m
  - ・ 支柱間隔は、12.5m
  - ・ コンコースの天井高は、約 4m

- (2) 駅舎デザイン：施工上の与件
- ・ 新幹線側から施工。
  - ・ 新幹線高架施工完了後、在来線高架施工。

- (3) 駅舎デザイン：その他の与件
- ・ ラチ外コンコース位置は左図に示す。



■ 駅舎・駅広平面図



## 8. 駅舎のデザインに関するコンセプト

駅舎の設計は、施行主体である鉄道・運輸機構、JR九州が施工されるが、熊本の陸の玄関口である熊本駅舎のデザインについては、県民・市民の意向を反映させたデザインコンセプトを両者に提示している。

- ・ H16. 12 駅舎デザインコンセプト県市素案公表
- ・ H17. 1 県市素案に対する意見の募集
- ・ H17. 2 意見を反映させた県市案（デザインコンセプト）の作成

### 《 県市の駅舎デザインコンセプト 》

- ① 末永く熊本の陸の玄関として在り続けられる風格や、熊本らしい独自性を持っていること
- ② 訪れる人に親しみや安らぎを感じさせるものであること
- ③ ユニバーサルデザインを取り入れた人にやさしい駅が表現されていること

### 出会の景コンセプト

#### 豊かな緑 万日山へつながる軸

四季の移ろい、明快なビスタの眺めを備えた空間  
駅前広場やホームから万日山、花岡山の緑を眺める  
軸線

#### にぎわいのメインストリート

コンコース内から電停や広場を眺める軸線  
ホーム ←→ コンコース ←→ 広場

期待  
半屋内感

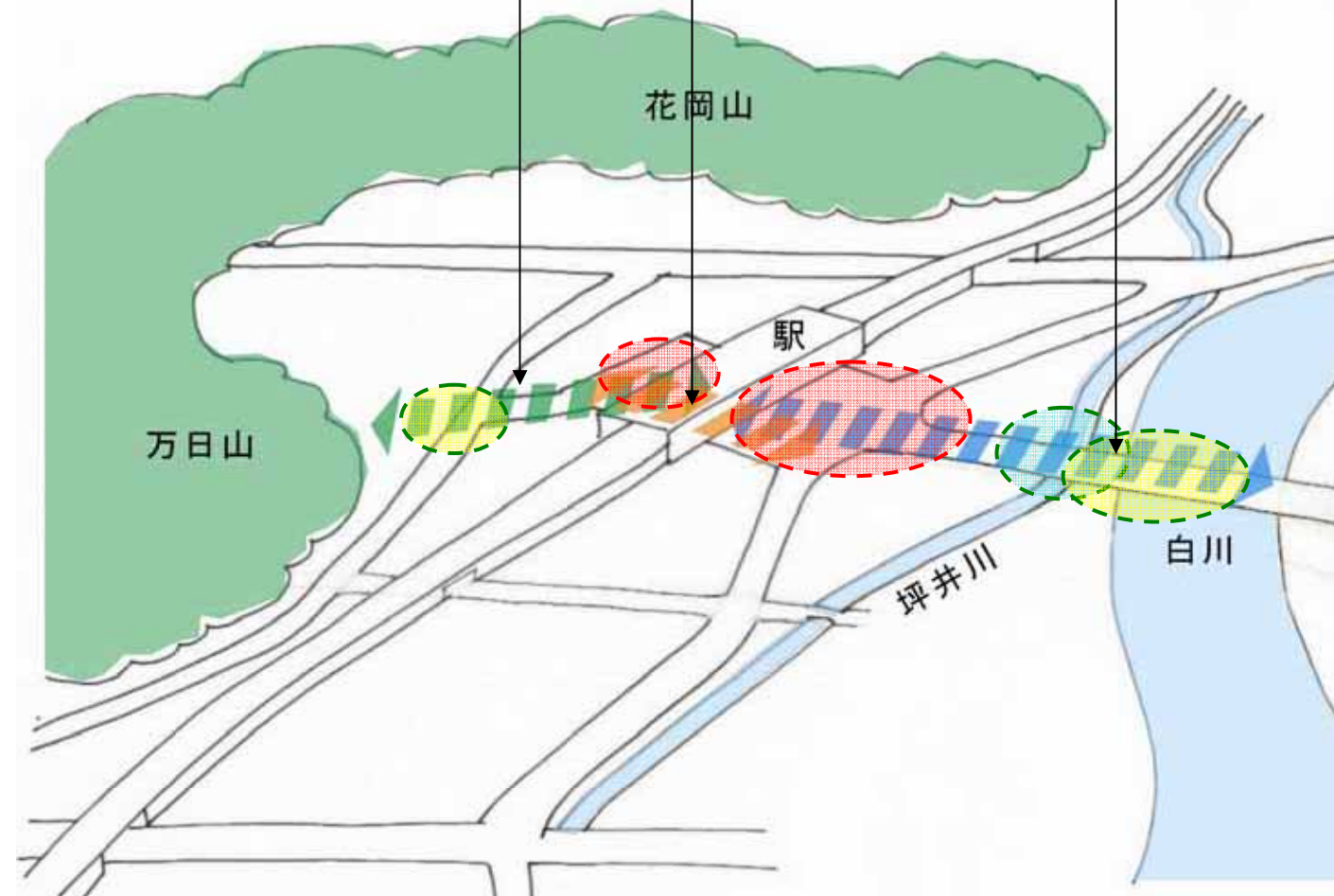
落ち着き  
包まれ感

躍動  
開放感

#### にぎわいからうるおいへとつづく軸

駅前の「にぎわい」から水辺の「うるおい」へと移行する主要な動線  
熊本らしさの第一印象を醸し出す、大切な空間

- ・ 公園のようなまとまりの感じられる豊かな緑、様々な形態の緑を基盤とした空間を形成する。
- ・ 道路と沿道施設とが一体となって、にぎわいやうるおいの空間を構成すると共に、歩行空間の広がり形成する。
- ・ 昼も夜も安全安心な空間を構成する。

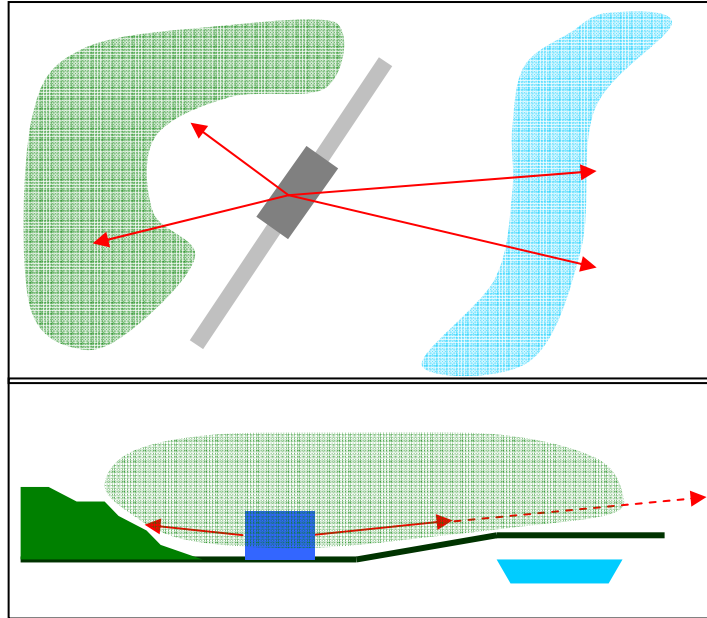


- ・ 駅から水辺広場へと導く明快な方向性を形成する。
- ・ 周辺の山並みを眺められ、地域の地勢が感じられる場を形成する。
- ・ 万日山や花岡山の緑、坪井川や白川の水辺のうるおい等、周辺環境との一体性が心地よく感じられる空間を構成する。

# 9. 駅舎のデザインについて

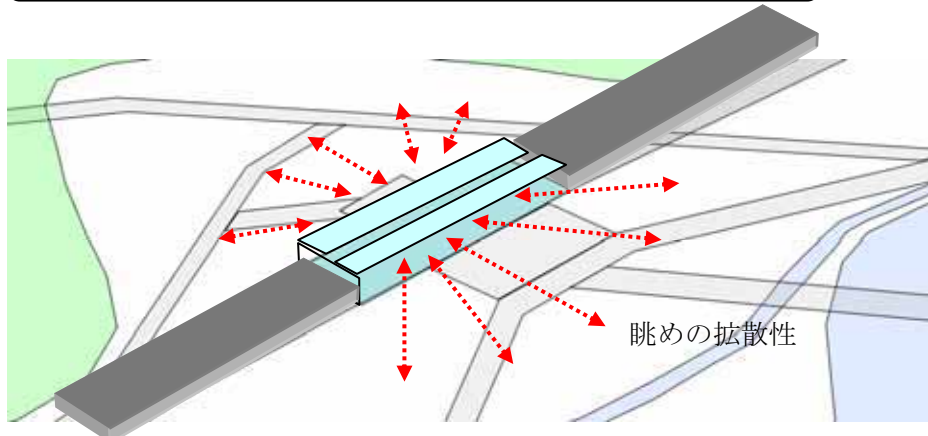
## (1) 周辺との関係性

### ① 風土・風景・空間と“馴染む”駅



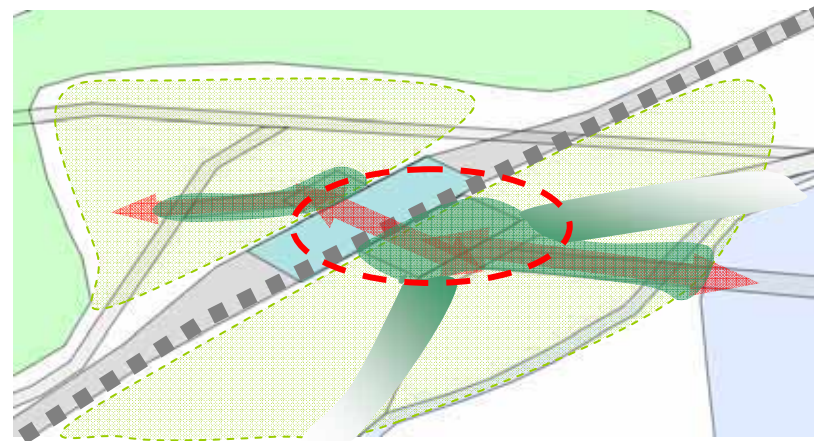
- ・万日山から白川まで、さらに阿蘇外輪山へ、熊本の風土に囲まれた駅として、際立つ存在ではなく、風土に馴染む駅舎
- ・駅舎を囲む山々の風景との馴染みに配慮
- ・地域の空間に馴染むようボリューム感を分節化
- ・屋根の見え方にも配慮する

### ④ 地域と駅 眺めの双方向性を確保する



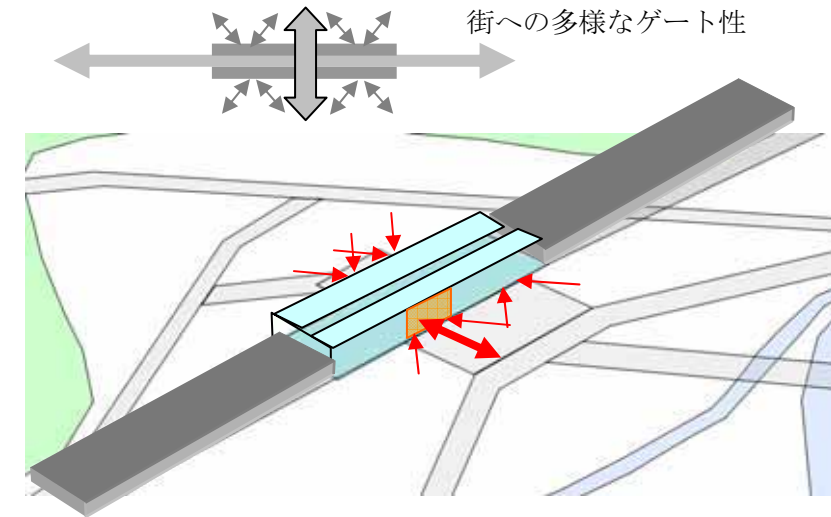
- ・ホームや車窓、ラチ内コンコースから街が、街からホームや車両、ラチ内コンコースが眺められるような、駅舎を取り巻く日常の風景とまちとの連携、視覚的連携を備えた駅舎
- ・夜間景観に配慮したデザイン

### ② 出会の景とのデザイン的な連携を図る



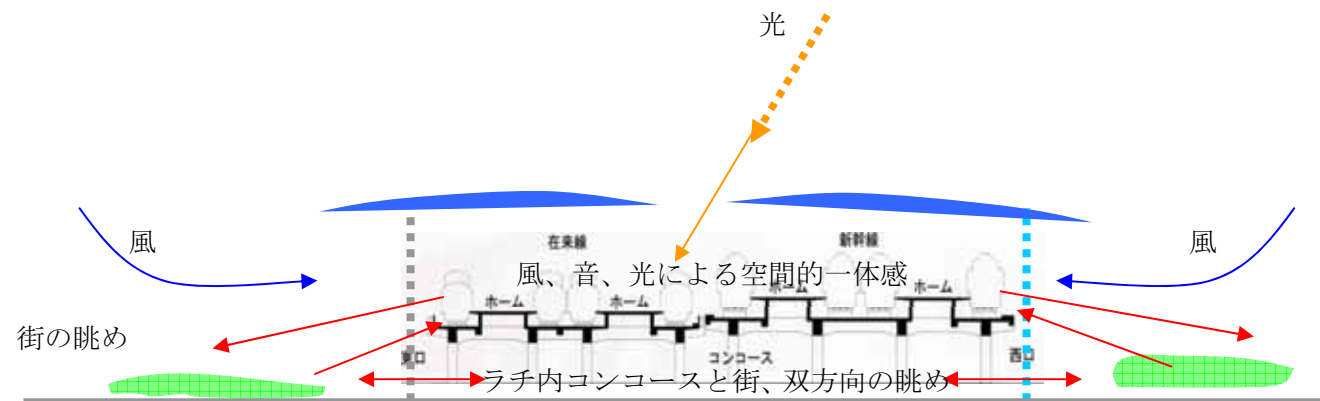
- ・出会の景で構成される、パークのような多様な緑や、にぎわいとやさしさの空間が、周辺施設と一体となって構成されるよう、各デザイン要素において出会の景と連携

### ③ 街へのゲート性を備える



- ・様々な方向から正対するような、街への多様なゲート性を備える駅舎

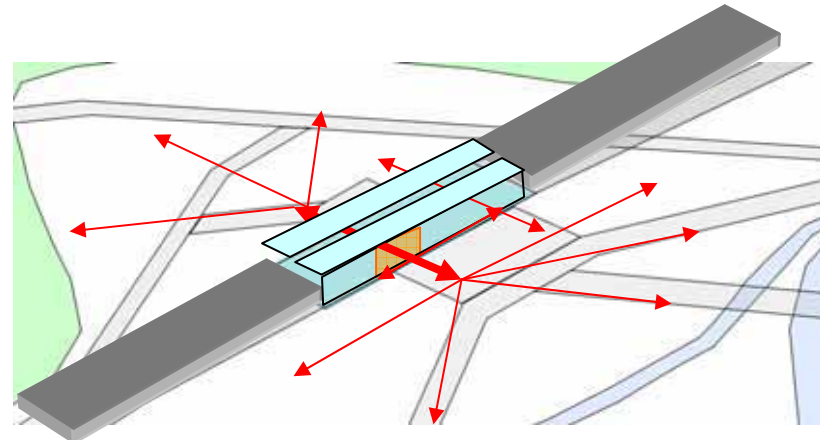
### ⑤ 熊本の気候風土を肌で感じる 空間的な連携



- ・駅舎を包み込む、光や風、緑、水、空等の自然が駅舎内でも感じられるような、ナチュラル感に馴染む駅舎

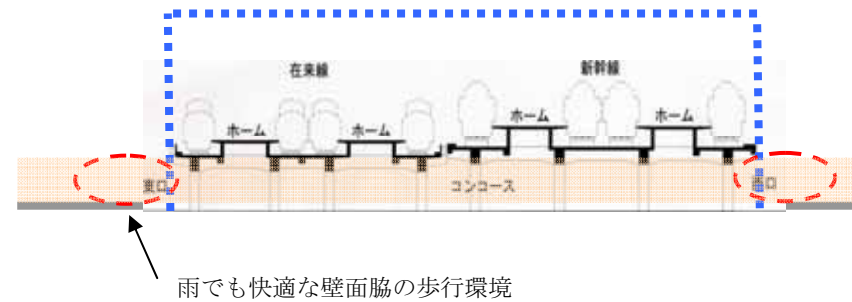
(2) 隣接施設との関係性

⑥ 使い勝手の良いわかりやすさを備える



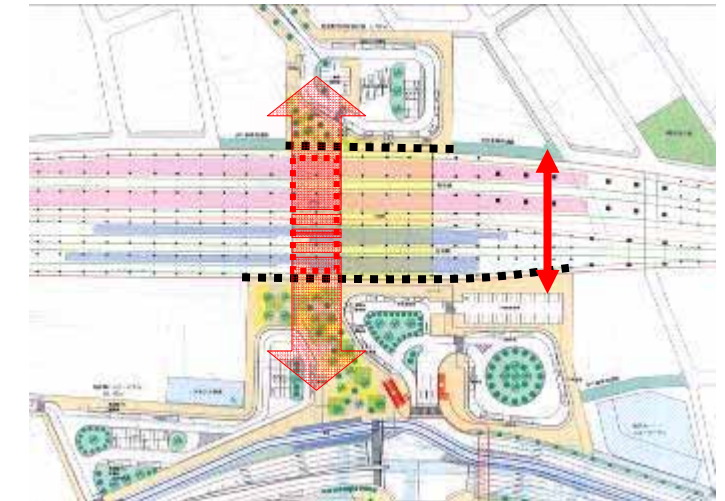
- ・交通の結節点として、乗り換えやすさ、移動のしやすさ、わかりやすさ等、駅から街への使い勝手の良さを備える駅舎

⑦ 広場の歩行環境との一体感を確保する



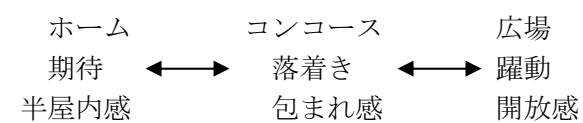
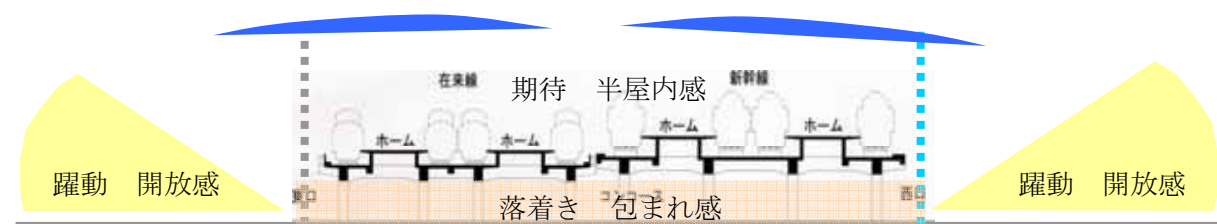
- ・広場と駅舎とが壁面で縁を切るのではなく、高架張出を軒下の歩行環境に活用するなど広場との一体感を備えた駅舎

⑧ 歩行環境の東西ネットワークを構成する



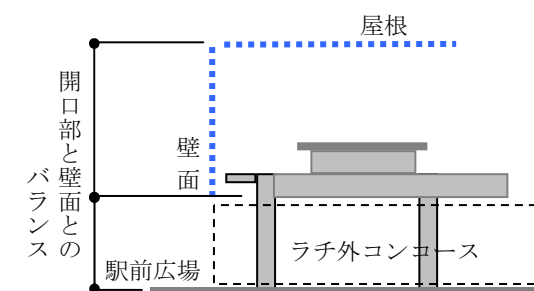
- ・主動線のラチ外コンコースと共に、広場北側に通路を設けることによって、利便性豊かな歩行者ネットワークを形成

⑨ ホームから広場への快適なストーリーづくり



- ・ラチ外コンコースは、圧迫感の無い快適な包まれ感形成のため、天井高さをできるだけ高く確保

⑩ 正面のプロポーションを整える



- ・壁面の高さに対して開口部高が低くかつ小さいことから、アンバランスを感じさせないようにデザイン的に配慮